

ラッキョウのネダニ類に対する各種薬剤の防除効果

1 情報・成果の内容

(1) 背景・目的

県内のラッキョウ栽培において、ネダニ類の被害が問題となっており、その対策としてスプラサイド乳剤40（以下、スプラサイド）を用いた植付前の種球浸漬処理が行われている。しかし、本剤が製造中止となり、2023年10月に登録失効となるため、その代替剤が望まれている。そこで、種球浸漬処理の登録がある各種薬剤を対象として、ネダニ類（ロビンネダニおよびネダニモドキ属）に対する防除効果について検討を行った。

(2) 情報・成果の要約

- 1) ロビンネダニに対して、アプロードフロアブルはスプラサイドと同等の防除効果であった。
- 2) ネダニモドキ属に対して、アプロードフロアブル、スミチオン乳剤はスプラサイドと同等の防除効果であった。
- 3) 以上の結果、ネダニ類に対する種球浸漬処理において、アプロードフロアブルはスプラサイドの代替薬剤として有望である。

2 試験成果の概要

(1) 種球寄生ネダニ類の効果確認試験（2022年）

ネダニ類（ロビンネダニまたはネダニモドキ属：いずれも県内で採集し、室内で累代している個体群）を放虫したプランターにラッキョウを定植し、寄生が確認された種球を試験に使用した。ネダニ類寄生種球を各薬剤に浸漬処理し、一晚風乾したものを定植した。被害球率を調査した結果、アプロードフロアブル、スミチオン乳剤、スプラサイドはネダニ類に対し、防除効果が認められた。また、ディアナSCは前述の薬剤に比べ、防除効果がやや劣った（図1）。

(2) 土壌中のネダニ類の効果確認試験（2021年）

健全種球を各薬剤に種球浸漬処理後、1時間風乾し、定植した。定植7日後にネダニ類（ロビンネダニまたはネダニモドキ属）を1ポットあたり30頭放虫した。定植60日後および定植74日後に被害株率を調査した結果、アプロードフロアブル、スプラサイドはロビンネダニに対し、防除効果が高かったが、ディアナSC、スミチオン乳剤の効果がやや劣っていた。また、ネダニモドキ属に対し、アプロードフロアブル、スミチオン乳剤、スプラサイドの防除効果が高く、ディアナSCはやや劣っていた（図2）。

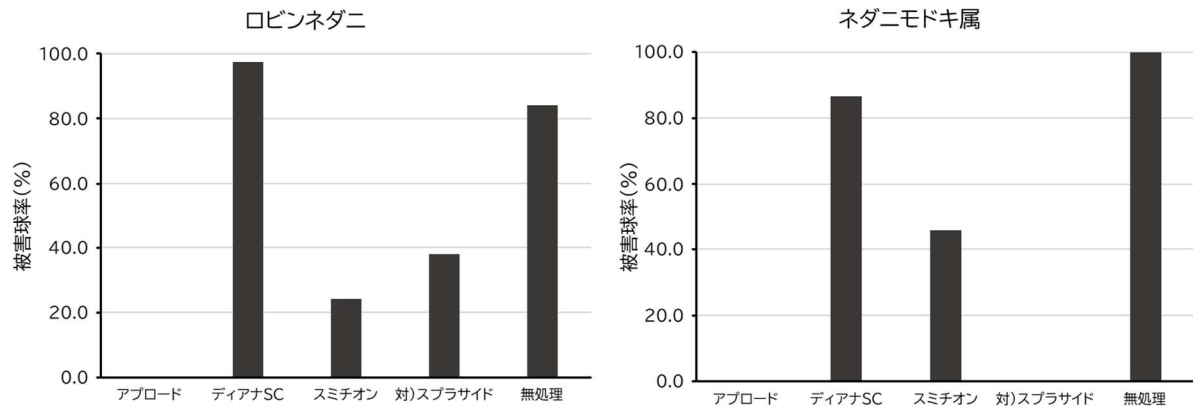


図1 種球寄生ネダニ類の効果確認 (2022年)

定植日：9/10、調査日：11/4 (定植55日後)
 各区、ロビンネダニは15株、ネダニモドキ属は12株とし、ネダニ類被害球率を調査した。連制無し。
 9/9に所定の濃度の供試薬剤に寄生種球を30分間浸漬処理した。
 供試種球はネダニ類を放虫したプランターにラッキョウを定植し、寄生が確認されたものを使用した。
 供試薬剤：アプロードフロアブル250倍液、ディアナSC2,500倍液、スミチオン乳剤1,000倍液、スプラサイド乳剤40 2,000倍液

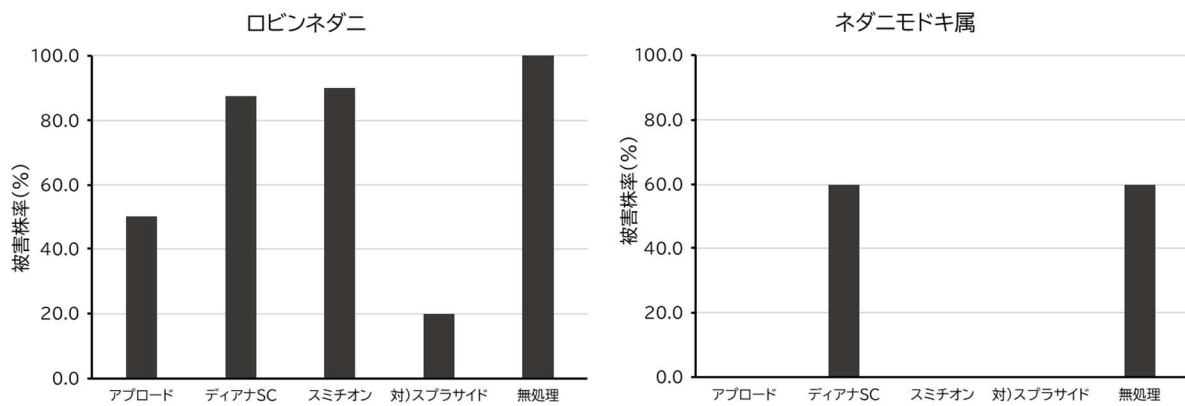


図2 土壌中に存在するネダニ類の効果確認 (2021年)

定植日：9/28、調査日：11/26 (定植60日後)、12/7 (定植74日後)
 各調査日に各区5株ずつネダニ類被害株率を調査した。連制無し。9/28に所定の濃度の供試薬剤に健全種球を30分間浸漬処理した。
 供試薬剤：アプロードフロアブル250倍液、ディアナSC2,500倍液、スミチオン乳剤1,000倍液、スプラサイド乳剤40 2,000倍液

3 利用上の留意点

- (1) アプロードフロアブルとスポルタック乳剤を混用する際、激しく攪拌すると、凝集する場合がある。

4 試験担当者

環境研究室 研究員 鈴木 祐
 室長 米村善栄